



- ①「癒し」をコンセプトとして、土入れ(右)から始めた庭造り。樹木の種類以外にも景石、苔、水の流れなど、全体のバランスを考えてデザインしている。(くろだ耳鼻咽喉科医院待合室前)
- ②竹垣、手水鉢などで趣のある露天風呂を演出。(宇城市の個人宅)
- ③貴一さん、父の一也さん、職人さん4人での剪定作業。定期的な剪定することで、樹木の生長を促進したり、病害虫の発生を抑えることができるという。
- ④剪定で切った木は、乾燥後に自宅の薪ストーブで再利用。
- ⑤プロジェクト名は3人が家業の3代目であることに由来している。
- ⑥部屋のインテリアとして手軽に緑を楽しめる苔テラリウム。



3%プロジェクト



ヤマモト緑化庭園

3%プロジェクト

「処分されるはずの伐採木を引き取り、加工して再利用することで優しい未来をつくる」。昨年10月に、町内の「木」を取り扱う3人(貴一さん、(株)四宮材木店 四宮一人さん、木工房ひのかわ 古島隆一さん)は、3%(スリーパーセント)プロジェクトを立ち上げた。

このプロジェクトでは、伐採・製材・製作の一連の流れを3人で行い、出来上がった加工品の売り上げを地域などに寄附したり、木育活動に充てることで未来に繋げることを目指している。取り組みは始まったばかりだが、テレビ局から取材依頼が来るなど、すでに多くの反響が出ている。

忙しい毎日を送る貴一さんだが、私生活では昨年結婚したばかり。休日には妻の真利奈さんとのんびり過ごすのが楽しみだという。

住人十彩

2021 March
#11 ~山本貴一さん(西上宮)~



このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を紹介します。
今回はヤマモト緑化庭園の山本貴一さん(写真左から3番目)です。



庭師の3代目

山本貴一さん(32)は、家業であるヤマモト緑化庭園の3代目。庭園のデザイン・施工・維持管理などを手掛けている。アメリカ・ロサンゼルスの高級住宅街「ビバリーヒルズ」で庭師として働いた経験を、持つ2代目の父・一也さんの仕事ぶりを、子どものころから見てきた貴一さんだったが、将来は家業を継ぐということは特に意識せず、「学生時代は野球に熱中していました。」という。

そんな貴一さんが、この道を志すきっかけになったのは、専門学校での造園の授業だった。熱心に課題に取り組み姿勢が先生の目に留まり、卒業後は先生から紹介された熊本市内の造園会社で修業。熊本駅前広場などの大規模施設の仕事に関わり、さまざまな現場を経験した。

4年間の修業期間を経て24歳でヤマモト緑化庭園に入ってから、家族や職人さんと共に、町内外の個人宅や公共施設などの造園を手掛けている。

技術習得にも力を入れており、県外の講習会にも足を運び、最新の知識や技術を学ぶ。努力が実り、若くして国家資格である1級造園施工管理技士や1級造園技能士を取得するなど、着実に実力を身に付けている。

また、近年は住宅環境の変化により庭園を造る家は減ってきているが、ひかわボタニカルマーケットで「苔テラリウム」を紹介するなど、手軽に緑を楽しんでもらう活動も行っている。